

今日で1学期が終わります。津波被害と放射能汚染という未曾有の脅威をもたらした東日本大震災と原発事故から2年4ヶ月。被災地では、仮設店舗での営業や漁業再開など復興に向けた動きは少しずつ進んでいる一方、被災地の情報が届かなくなっているのが気になります。福島では原発事故処理をはじめ、今なお多くの方々が故郷を離れ避難生活を送り、展望の見えない日々を過ごしています。被災地の一日も早い復興を願うと共に、被災者のことを一日たりとも忘れてはならないと思います。

さて、皆さんは、1学期をどのように過ごしましたか。私は1学期の始業式で、2・3年生にはマラソンの高橋尚子選手の「坂」への挑戦を引き合いに、第一に「自分の限界に挑戦する」こと、第二に「小さなことをコツコツと積み重ねる」ことの2つを求めました。特に、小さな努力については、「魂・知・和」の精神で日本一になった沖縄県の興南高校野球部の話を引用し、「魂」として「時を守り、場を清め、礼を正す」という規律ある態度を身につけること、「知」としてたくさんの知識を身につけること、「和」としてクラスメイトや先生方と協力して、学校行事や部活動など自分たちで行う教育活動に精一杯取り組んでももらいたいと話しました。また、1年生には入学式で、第一に「Boys be ambitious」の札幌農学校教頭のクラーク博士の「自分の能力の最善を尽くす」こと、第二にサッカーJ2のカマタマーレ讃岐監督羽中田昌(はちゅうだ まさし)氏の「夢をあきらめない」を引用し、「志」を持って高校生活を送ること、さらに建築家安藤忠雄氏の「知識を大切にする」を引用し、自ら主体的に「学ぶ」学習の習得の3つを求めました。

一学期を振り返り、2・3年生は各自、文武、特に学習面で自分の限界に挑戦できたでしょうか。小さな努力については、野球部の朝のゴミ拾い、体育祭やスポーツ大会でのクラスの団結、部活動に努力が見られました。特に、関東大会へあと一步の剣道部をはじめ、多くの部が県大会出場・県展出展等の成果を上げました。ギター部のボランティアや地域貢献もよい取組でした。挨拶は1年生がよく行っていました。服装は残念ながら私から直接注意されたのは2・3年生の女子でした。「今日の努力に不足なかりしか」です。挨拶はコミュニケーションの基本です。上級生として、また進路実現のために、自己を規制し規律ある学校生活を送ることを意識して欲しいと思います。1年生は、1学期の成績を見ますと、高校での学習の主体的に「学ぶ」形がまだ身につけていないように思います。部活動から家庭学習への切り替えと夏休みの課題への取組を契機に、2学期以降、予習・復習の励行により奮起を期待しています。

ところで、7月18日は何の日だったか知っていますか。国連が定めた「ネルソン・マンデラ国際デー」です。南アフリカ元大統領のネルソン・マンデラ氏の誕生日で、氏が生涯のうち67年間をアパルトヘイト(人種隔離政策)をはじめ、人権と社会的正義を求める闘争に捧げたことを讃えて設定され、今年で4年目を迎えました。国連では、マンデラ氏の人道に奉仕してきた歳月1年を1分に換算し、67分間の公共奉仕の実践を求めています。日にちはすでに過ぎていますが、家の周りや地域のゴミ拾いでもかまいません。夏休み中に市町村の社会福祉協議会が募集しているボランティア活動等に参加したりして、この夏、一人ひとりが人権について考え、社会貢献する機会をつくってください。マンデラ氏は、現在95才ですが病床にあります。マンデラ氏の回復を心より祈りたいと思います。

同じ18日日、外国語科2・3年生を対象に「高校生世界へ羽ばたけ! 育成塾」の講

演会を行いました。講師はM&A（企業買収や合併）を行うコンサルティング会社社長の岡俊子氏で、「若いときの3回の海外体験が教えてくれたこと」と題してご講演を戴きました。

講演では、「今の人生の基礎をつくってくれたのが高校時代で、今必要とされることの多くは高校時代に基礎がつけられた。特に、高校時代の試験勉強を通じて、仕事をとことん頑張る耐性が形成された。この耐性は、10代で体験しないと、社会人になってから頑張れない。人生には何度か、とことん頑張らなければならない時がある。高校時代は勉強を通じて『とことん頑張る耐性』を身につけることが最も大切である」とのお話がありました。さらに、「自分で考える癖をつけ、議論することを厭わないこと。論理的な文章がかけ、計算を間違えない、読み書き（今後は英語+α）、そろばんができること。また、高校時代は選択肢を広げるかエッジを深くするかを選択と、どのソサエティに属するか連続。特に、大学受験はどのソサエティに入るかを選択である。それによって自分の力が発揮できるか決まる。但し、やりたいことを明確にしないと選択肢は広がらない。英語ができないことで選択肢は狭まるが、英語ができればグローバルビジネスができるわけでもない。大事なのは、自己のアイデンティティを確立（リベラルアーツ、特に歴史）した上で、多様性を身につけること」と、高校時代に何を学び、身につけるべきかについてもお話いただきました。

皆さんは、今、とことん勉強していますか。講師の岡さんは色々な企業や旧通産省関係への出向の経験と企業経営者の立場から、高校時代に「とことん勉強すること」で、社会人になった時に「とことん頑張る耐性や土台がつけられること」。大学受験について、どの大学に入るかは卒業後にどのソサエティに属するかに繋がる側面があると指摘されました。坂高生全員に是非聞かせたかった講演でした。

これから、夏休みに入ります。学校では、オーストラリア語学研修をはじめ、受験に向けた指導として1・2年生の進学合宿・補習、3年生対象の進学補習が計画されています。多くの生徒が参加する予定ですが、これらの勉強合宿や補習を活用すると共に、各教科から出された課題や2学期の予習を行うなど計画的に学習する、1・2年生でも自主的に一日5～6時間勉強する「とことん勉強」に、この夏休み取り組んでみてください。

また、進学補習の他、埼玉大学とのサイエンスラボ、日本の理化学研究の最高峰の理化学研究所見学会、埼玉大学見学会、外国語科のディベート研修、イングリッシュセミナーなど、皆さんの志を高め、ステージを上げる企画もあります。これらは生徒の皆さんの背中を押す企画です。一部はまだ募集中とのことですので、「坂の上の挑戦」として積極的に参加してもらいたいと思います。

そのためには、部活動等からの切り替えが大事です。「文武に優れ、世界に羽ばたくリーダーを育てる」本校の目指す学校像は、勉強が第一でなければ実現しません。このことを念頭に勉強への切り替えを意識し、部活動や文化祭準備は集中して取り組むようにしてください。時間をかければ、良い文化祭ができるのではなく、協力して如何に工夫するかが重要なのです。特に、3年生は「夏を制する者は受験を制する」といわれる夏休みが勝負の時ということを忘れないでください。

最後に、夏休み中、ここにいる生徒全員が事件や事故に巻き込まれず元気な姿で2学期の始業式に出席できるよう健康と安全に十分注意して過ごしてください。